

令和元年8月総合教育委員会 会議録

日 時 令和元年8月5日(月) 午後4時15分～午後5時15分
場 所 中央公民館学習室A
出席者 町長 壬生照玄
教育長 帯刀昇
教育長職務代理者 藤田柳治
教育委員 宮島元子 鈴木ちほ 湯澤正農夫
事務局 福島事務局長・大沢局長補佐・清水局長補佐・松島子ども支援係長・寺沢社会教育係長・岩田文化財保護係長・富田総副園長

1. 開会

2. 町長あいさつ

私になって3回目の総合教育会議、今後もお願いしたいことや新たな取り組みへのご意見お聞きすると思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3. 協議・報告事項

1) 保育園において発生した死亡事故の検証等に関する報告書について

本日、保育園事故検証委員会から事故の検証結果をいただきました。昨年の2月19日みつば保育園の園外保育中に発生した死亡事故の内容になります。町では15回の検証委員会を行い、資料にある報告書をまとめていただきました。これは、保育士の責任を問う事ではなく、客観的に何故発生したのか、その時の対応がどのような状況だったのかという検証と再発防止等内容の検証をお願いし、報告をいただきました

壬生町長)

マニュアルを受取ったばかりで、何を行うか具体的な内容の説明は直ぐにはできませんが、このマニュアルに沿って事業を実施していく約束はさせていただきました。受け取った後、教育長に連絡し、保育園のみならず小中学校、ふれあいスクールに情報を提供し、今後町全体で子供達を支える場所で事故が無いようお願いをしました。

2) 意見交換

◆壬生町長からの提言

図書館の先生との話で南小学校は読書が盛んで読んでいる冊数も多かったが、最近、読書で重要なのは冊数ではないということがわかってきた。学力テストでの読解力が伸

びていない。冊数を伸ばすことが目標になっている読書になってしまっている。小中学校の図書館で連携し、司書の方からアイデアをいただき読解力が伸びる事業を先生方に提案できるよう行っていきたい。電子書籍導入を考えていきたい、その本が借りられていると借りられないという状況が改善できる。日本の本は著作権の関係で電子書籍化するのは難しいことがあるが、日本語の本とその英語の本両方を電子書籍化し貸出しができないか研究をしていただいている。学校図書館支援センターをつくり、学校司書をうまく機能させ、学校図書館の運営や授業の進みやすさを向上させる、このことを先生に理解してもらい、読むだけではなく調べ学習に於いても図書館の利用を促すよう子どもの読書支援センターについて設置に向けて話し合いを行っている。

<質問・意見>

藤田職務代理)

普通の本の電子書籍化はどの程度まで行う事を想定しているか。

壬生町長)

郷土資料の著作権が町にあるものは電子書籍化を考えていますが、一般の本は電子書籍化されたものを買う予定。

藤田職務代理)

読書好きになることが必要。親が本を読まない。親が読書している姿を見せることも必要ではないか。

福島事務局長)

親子と一緒に本を好きになれるような仕組みを作っていきたいと考えている。

湯沢委員)

その環境に子どもたちが興味をもてる学校の中の学習の仕組みをつくっていかねばならないと思う。今のままだと、利用されずに終わってしまうと思う。

福島事務局長)

全体をコーディネートする仕組みは必要だと考える。

◆壬生町長からの提言

飯田市には高校生の活動においてつなぐ事業が展開されている。高森町では、松川高校から高森町の企業につなぎたいといってもつなぎ方がわからない、という状況である。高森町役場の各担当が理解できていない状況であり、早急に体制を確立するべきである。また、早めに企業の掘起しをして企業につなぐ事をしないと高森町だけが他の市町村より遅れてしまう。行う内容はインターンシップの様なものであるが多少ニュアンスが違う。例えば、企業の中には会社の中に高校生にたまり場を開放しているところもある。そういったたまり場を作るにも企業は投資する必要もある。そういう開かれた内容を見せることによって高校生自身がこの様な会社があることをPRし、会

社の信頼度も上がり、将来的な人材不足の解消の手段にもなる。将来的に人材不足は深刻化すると考えるので、高森町もつながりに対する協力体制を早めにつくっていきたい。

<質問・意見>

藤田職務代理)

企業体験、コミュニティースクール等で地域の課題を将来に向けて考えて行くことも必要ではないか。学生がグループになって自分達の地域の事を考える事も重要で自分達で地域の将来に向けての方向性を見出して欲しいと思う。持続可能な地域、持続可能な社会は重要なテーマである。

湯沢委員)

近隣の町村の状況はどうか。高森町だけでなく伊那谷が協力しないといけないのではないか。

壬生町長)

飯田市と高森町の考え方はかなり近いです。ただし、やり方の手段や手法は違う。高森町は必要だと考えれば投資を行うが飯田市は投資を行わないで民間を利用する方法。市と町では一元化できないと考える。

4. 閉会